

Monthly Report 震災特別号

Vol.58 / 2011.03.31

がんばろう 日本

東北地方太平洋沖地震(東日本大地震)

日本国内観測史上最大の巨大地震(M9.0)、
大津波で太平洋沿岸部は壊滅的な被害



写真 / 仙台大学付属図書館

3月11日(金)14時46分頃、宮城県沖を震源とする東日本大地震が発生しました。1000年に一度といわれる未曾有の巨大地震で、日本国内観測史上最大のM9.0という値を示しました。

この地震により、最大で10メートルを超える大津波が発生し、岩手・宮城・福島の3県の太平洋沿岸部は壊滅的な被害を受けました。死亡者と行方不明者はあわせて2万8000名を越え、本学でも学生2人の尊い命が奪われ、1人が行方不明(3/31現在)となっており安否の確認を急いでいます。この他、学生や教職員の自宅やご実家が倒壊・半壊・浸水などの被害にあっていることが報告されています。また、大津波によりコントロールを失った福島第1原発の避難勧告、屋内待機地域にご実家がある学生・教職員もおります。本学は福島第1原発より直線距離で約74kmあるため、直接的な被害はないとされる距離に所在していますが、米国をはじめ諸外国は80km圏内に住む自国民に対して避難指示を発していることもあり、今後も予断を許さぬ状況で、一刻も早い収束が待ち望まれます。

~被災された皆さま~

平成23年3月11日(金)午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大地震)におきまして、お亡くなりになられた方に深く哀悼の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本学に対し、多くの皆様より物心両面に渡る励ましのお見舞いを頂戴し、心より厚くお礼申し上げます。

弔意



3月30日(水)に実施した教授会の冒頭で、東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、全教職員により黙祷が捧げられました。

未だ行方不明の方々の安否と、被災されました皆さまの1日も早い復興を心より祈念いたします。

仙台大学地震発生時の記録

震災当日、本学は一般後期試験日でしたが、地震発生時には試験は全日程が終了しており、学内には教職員のみが残っていました。

< 14 : 46 地震発生 >

緊急地震速報により、学内に設置された緊急地震速報を知らせるブザーおよび、各人の携帯電話に緊急地震速報が鳴動。その数秒後に地震が発生、立ってられないほどの大きな横揺れが数分間続き、机や棚の引き出しは全開、散乱した。その後、すぐに停電(後に、水道の供給停止も確認)。教職員は地震が一度おさまるのを確認して噴水付近に全員が避難。その後も余震は続き、建物内に入れる状況にないため、教職員は約1時間、噴水前で待機した。その間、男性職員は手分けし、学内に残っている者がいないかを確認。学生には



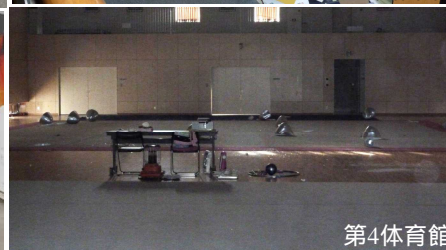
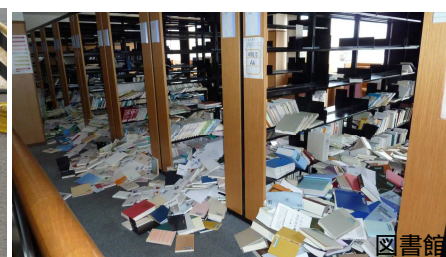
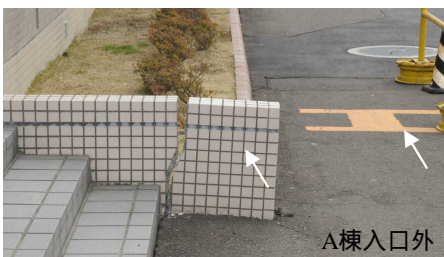
昨年度開設した「たよれーる携帯緊急メール」により、安否確認のメールが発信された。教職員は16時に解散指示により、船岡に居住する一部の職員以外は帰路に着いた。この時、停電のため電車も信号機も動かない状態であり、大きな余震が何度も訪れる中、道路はすでに大渋滞であった。

仙台大学の被害状況

本学では耐震工事が全ての建物で完了しているため、建物の倒壊など極めて大きな被害はなかったものの、数10箇所の施設・設備に破損が確認されました。

主な被害は以下の通り

- ・ 第1体育館のガラス枠の破損（落下の危険性）
- ・ 第2体育館の天井の一部破損・落下
- ・ 第4体育館2Fの照明が全て落下
- ・ 付属図書館と第2図書館の本の散乱
- ・ B棟の外壁に亀裂・E棟の壁面タイルの落下
- ・ C棟の教室・研究室のガラス破損
- ・ 構内の複数箇所の地面に陥没と亀裂



避難所として施設を開放

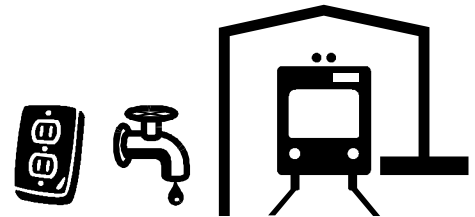
本学は災害時の避難場所となっているため、建物の被害がなかった学生食堂（D棟）を避難場所とし、近隣の住民および学生約300名を受け入れました。

地震発生から朴澤学長、佐々木事務局長、管理課の高田課長・鈴木職員、学生課の高橋課長・平井職員・石森職員、教務課の三浦職員・我妻職員、学生支援室の南條臨時職員・林臨時職員が大学に泊まり込むなどして、休日返上で避難所および大学としての対応を図りました。



地域のライフライン復旧状況

地震により電気・水道のライフラインがストップしましたが、船岡地区は地震から4日目となる15日（火）には電気が復旧。19日（土）に水道が復旧しました。JR東北本線についても、4月上旬に福島駅～仙台駅間の運行が再開する予定となっており、復興に向けて着実に前進しています。



卒業生・在学生・新入生への対応

< 在学生への対応 >

1. 安否確認について
 - (1) 教員がクラスおよび部活動単位で学生の安否を確認。その他の学生には学生課を中心に職員が手分けして学生の携帯電話および自宅に連絡。
 - (2) 3月18日現在で安否が確認されている学生名に印をつけてホームページに掲載。印のない学生の情報がいないかを呼びかけた。
2. 授業等について

4月末まで休講とし、新学期のオリエンテーションは5月7日（土）・8日（日）、前期の授業開始は、5月9日（月）からスタートとした。
3. 大学敷地内への立ち入りについて

体育館及び建物に立ち入る場合は管理課へ届出ることを義務づけ、余震が続いているため、安全確保に十分努めるように指導。
4. その他

各種問い合わせは担当部署で対応。

< 平成23年3月卒業生への対応 >

3月19日（土）に予定していた卒業式は残念ながら中止。卒業証書等の配布物については、大学から安否確認をかねて卒業生（届出の実家住所）宛てに往復はがきを郵送し、返信ハガキに送付先の住所を記入し、返信することで対応。家屋が被災され郵便が届かない場合は、電話などでの連絡を呼びかけた。

< 平成23年4月入学者への対応 >

4月2日（土）に予定していた入学式は新幹線など交通機関の復旧を前提とし、朴沢学園創立記念日の5月6日（金）に延期。オリエンテーションについては5月7日（土）・8日（日）の2日間を設定。

OBはじめ多くの皆さまから支援・メッセージが寄せられています

今回の震災では、全国各地から被災地に支援物資が送られ、国内外関係なくスポーツ選手や俳優などが支援を呼びかけ、多くの物資・復興基金が赤十字などを通じて贈られています。

本学でも地震当日、熊本県天草市でキャンプを行っていた硬式野球部には天草市のボランティアの協力で部員が大学に戻ってからの食料などをいただいた他、天草市地域の方々から多くの救援物資が寄せられ、これは柴田町社会福祉協議会を通じてより多くの被害を受けた被災者の元へ届けられました。

また、本学のOBも箕輪選手が自身のブログで心配するコメントを寄せたり、電話で大学や恩師である本学の先生方の安否を心配する声が多く寄せられました。

仙台大の卒業生もブログで、仙台大学OBの安否情報を掲載しています

仙台大 ラグビー部OBブログにて安否確認（OBが中心となって情報集約）

http://blogs.yahoo.co.jp/sendai_col_rugby/19390289.html

サッカー部OBの箕輪義信さんのブログにて安否確認や、被災地に向けてのメッセージ発信中

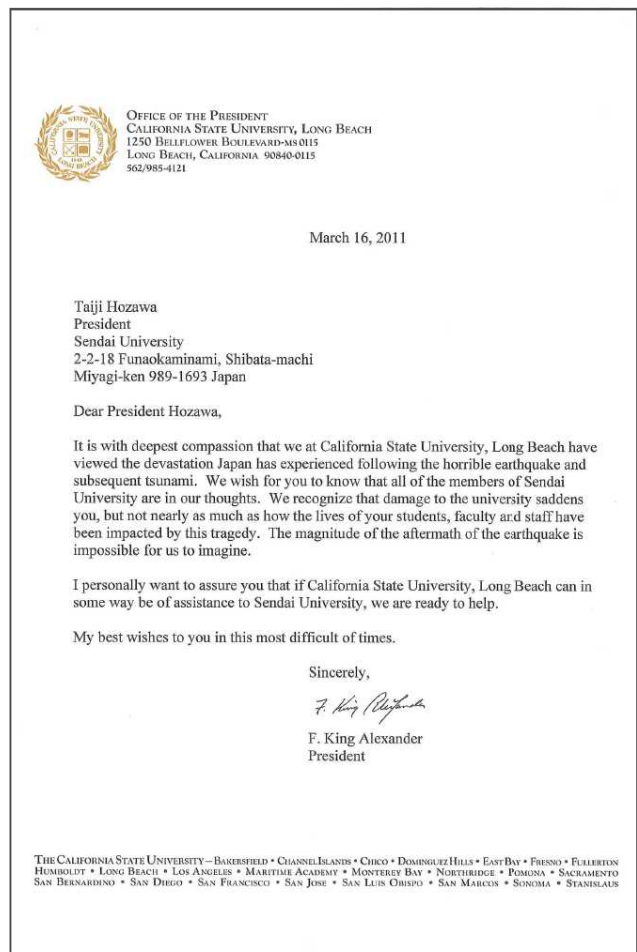
<http://ameblo.jp/minoyoshi/entry-10829832826.html>

理事長・学長宛のお見舞い状

～国内外から寄せられた応援メッセージ～

大震災後、朴澤理事長・学長宛に、国内外の関連各位、提携している大学他より大変親身なメッセージが多々届いています。（3月30日現在：国内＝15、海外＝18）

その中の一つであるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校学長のキング・アレキサンダー氏からは「この度の震災に際し、心からお見舞いを申し上げ仙台大学の学生・教職員、関係者みなさんが無事であることを切望します。私達がみなさんと共にいることをどうぞ忘れないで下さい。1日も早い復興を心よりお祈り致します。」との書面をいただきました。また、中国青梅省体育研究所の馬研究所長からは「仙台大学に是非寄付をしたい」、ハワイ州立大学アウトリーチ校前学部長のピーター・タナカ氏及びアスレティックトレーナー関係者からは「ハワイですでに義援金を募っている」との連絡を頂戴しました。その他、韓国国立体育大学、台東大学、上海体育学院、吉林体育学院、東北師範大学、カヤ二応用科学大学、龍仁大学校、ドイツのオルデンプルグ大学からもあたたかいお見舞い状が届きました。昨年12月まで約2年間にわたり、本学の新体操部を指導していたロシア・ベラルーシ在住のマリア・マカロア氏は「大災害に際しベラルーシ大学も、マカロア個人としても貴校への支援を惜しみません。」とメールを下さるなど日頃より国内外の大学と築きあげてきた信頼の絆は、この大震災という苦境を経てなお一層強いものになっています。



広がる善意の輪・明成高校男子バスケット部の給水ボランティア

～コートの外でも大活躍～



「本当にありがたい、とても助かりました。」「生徒さんが一生懸命水汲みをしてくれて感激です。」という地域の方々からの声が、明仙・バスケラボに続々と寄せられています。

明仙・バスケラボ施設にある外の水飲み場は、大震災後も水が止まらなかったことから地域の方々に対し、いち早くボランティアでの給水支援活動を開始しました。

これは明成高校付近にある桜ヶ丘消防署に、地震の揺れがおさまったと同時に周辺の方々が水を求め、長蛇の列になっている様子を見た佐藤久夫先生（明成男子バスケット部監督）が速やかに音頭を取り、始めたものです。

先生方のご指導のもと、まず男子バスケット部の生徒達（1～2年生：全部員28人）は水汲みのために早朝から押し寄せた車が整列するのを誘導し、次にポリタンクや空のペットボトルを受け取ると、8つある蛇口をフルに利用してテキパキと水を汲み、車まで運んだり、歩いていらした高齢者の方々には途中まで重い水を持って差し上げたりと、まさに目を見張る大活躍でした。また、訪れたお一人お一人に「こんにちわ」「お疲れさまです」「頑張ってください」と積極的に挨拶をする礼儀正しさには、多くの方々が深々と頭を下げ、口々に感謝の言葉を述べていらっしゃいました。

川平にお住まいの鈴木さんは「ここでも水を

もらえると聞き、震災翌日から毎日ずっとお隣の方の分も合わせて通っています。今まで、近くにいながら明成の生徒さんと接する機会はほとんどなかったのですが、今回こうしてじかに話すことができ、みなさんがとても素直で思いやりの気持ちにあふれていることを知り、本当に励まされました。明成高校は男女バスケットが強いのはもちろんのこと、調理科では美味しいお弁当をいつも作ってくれるそうなので、今年の文化祭には是非家族で来ようと思います。」とおっしゃっています。

率先して生徒と共に給水を手伝った品田新助手は「生徒も自分も大変良い勉強になりました。みなさんからの感謝のお菓子などは、お気持ちだけ頂戴していたのですがある朝、水道の蛇口にキャラメル1箱が置かれているのを見つけ、ささやかであっても全員が力をあわせれば、きっと誰かの役にたてるのが分かり嬉しいです。」と感想を述べました。

水が復旧すると共に日を追って利用者は減ってきましたが、のべにするとこれまで約700名くらいの市民が給水したこととなり、明仙・バスケラボ施設に常駐なさる櫻井理事は「困っている最後のお一人に必要とされるまで、給水場の開放は継続します。」と話されるなど、災害時におけるあたたかい助け合いの精神が、地域の方々との強い絆としてここでも確かに実践されています。

チーム仙台大学として学生が災害ボランティア



本学学生がチームを組んで災害ボランティア活動を行うことになりました。現在、複数の本学学生が個人の意思で災害ボランティアに登録し、それぞれの地区で活動にあたっています。本学で学んでいる体育・健康福祉・栄養等の分野を活かして活動した方がより大きな効果が得られると考えられることから、仙台大学ボランティアセンターで活動可能な学生を集めて実施するものです。

活動場所は、沿岸部に津波の被害を受け、7箇所の避難所に約2,500名が避難している亘理町と、福島原発避難者約400名を受け入れている柴田町です。亘理町からの派遣要請として 瓦礫の撤去作業、要援護者の見守り、エコノミー症候群予防の運動指導、子供の遊び相手と学習支援、物資・衣類の提供と仕分け作業などの申し出がありました。この他、ドクターと看護師の派遣要望が出たため、医師の橋本教授と看護師免許を持つ山野講師、庄子講師、鈴木職員、戸内職員が避難所を巡回する予定となっています。

柴田町からの派遣要請は 仙南中央病院での食事運搬・配膳補助、被災者住宅の掃除、援助物資の仕分け、配給補助等です。

学生の取り組みが、被災した方々の心にゆとりを与える活動に期待しています。

『仙台大学震災復興基金』受付について

義援金について～災害義援金の受付をいたします～

今回の大震災では、本学の多くの学生・教職員も被災しております。現在、被災状況の詳細な把握と共に、復旧に向けて全力で努力しているところです。

なお、国内外の多くの皆様から災害義援金のお申出を頂き、心から感謝申し上げます。

これらのお申出に対処すべく、下記 災害義援金受付窓口を設けさせていただきました。災害義援金につきましては、本学教育施設の災害復旧および被災した学生を支援するために大切に活用させていただきます。

災害義援金 振込口座
七十七銀行船岡支店 店コード 803
普通預金
口座番号 5491550
口座名 仙台大学震災復興基金

出納責任者 佐々木幸夫

義援金をお振込いただく際には、お手数をお掛けしますが、本学代表電話（広報室/0224-55-1121）までご一報いただきますようお願い申し上げます。後日お礼状をお送りさせていただきます。

東北地方太平洋沖地震(東日本大地震)による宮城県内の被害

石巻地区(撮影日/3月17日)



写真提供 / 石森職員

亘理地区(撮影日/3月29日)



写真提供 / 橋本教授